

県外派遣審判 報告書

報告者	南出 大輔 (北相)
大会名	令和6年度 第54回関東中学校バスケットボール大会
大会期間	令和6年8月7日 (水) ~ 8月9日 (金)
開催地・会場	千葉県/船橋市総合体育館 (船橋アリーナ)
審判会議・ミーティング・レクチャー等	
■ 審判会議 日時：2024年8月5日(月) 19:00~ 開催形式：オンライン(Zoom)	
1.挨拶 千葉県バスケットボール協会 専務理事 大野 健男 氏 千葉県バスケットボール協会 審判委員長 中嶽 希美子 氏 関東バスケットボール協会 審判委員長 平原 勇次 氏	
2.指名審判員レクチャー 渡邊 諭 氏 (栃木) 岸 由貴 氏 (群馬) 六角 亜沙美 氏 (東京)	
◆六角 亜沙美氏 審判のレベルアップに向けて ①リードの時の視野の取り方、ローテーションのタイミングについて 何を見たいのか … 体と顔の向きで示すことにより、他のクルーの見るところを明確にすることに繋がる。 ・ミッドラインよりもT/Lサイドにボールがある時はミラーザボール → オフェンスラインではなく、ディフェンスライン。 ・ミッドラインよりもCサイドにボールがある時はクローズダウンポジションへ移動 → あくまでもローテーションの準備のため、クローズダウンポジションにとどまりすぎない様に意識をする。 ・気になるプレーを発見 → 早足でローテーション ※スキャンザペイントしながらローテーション ・ピックアンドロールの時はダイブしてくるプレーヤーやそれに対するヘルプディフェンスの準備 → 少し広がって見ることもある。	
②タイムマネジメントについて ・動いたこと、止まったことを声を出して確認 ・ショットクロックが20秒の時のタイマーの秒数を確認(計算がしやすい) ・フリースローの時は特に注意 → バイオレーションでクロックが動いてしまうことがある。	
◆岸 由貴氏 ①選手やコーチとのコミュニケーション (1) 「何が」「どうだった」「どうならば良いか」など、言葉の内容を選択し、簡潔に短く話す。 (2) 試合中、コミュニケーションを図るべき場面か否かを都度判断する。 ・試合が止まっている時 (ファウルがあった時やOOB時など) にその前の状況や選手の行為について軽く声掛けをしたり、質問したりして、意図的に選手との接触回数を増やす。 ・レフリーに話しをかけたがっている選手は近づいてくる、こちらを見ている。(コーチも含めて) 全てを聞く(対応する)必要はない(できない)が全てを無視(対応しない)はしないようにする。相手の表情や状況を観察し、向き合い方を考えていけるとよい。 ・ライブの状態での声かけ (3) クルー (仲間) の「判定に対する」ベンチ(コーチ)や選手とのコミュニケーション (4) コミュニケーションというと、「何を言うのか」「どう伝えるか」と言葉(言語情報)に意識を向けやすい ・メラビアンの法則(コミュニケーションでは以下の3点からの影響を大きく受ける) 「言語情報」 7% … 話の内容、言葉の選択 「聴覚情報」 38% … 話すスピード、声の抑揚 「視覚情報」 55% … 表情や態度	

(5) コミュニケーションは相手がいて成り立つもの

(6) 「ありがとう」を伝える

(7) 何よりも、まずは「正しい判定」を示すことが大切

・判定力を高め、ゲームをスムーズに進めることが我々審判の仕事である

→ 正しく判定するための「正しいメカニクスの実践」を繰り返しながら、その後の振り返りを継続することが重要。

②POCを正しく判定するため

・POCを正確に把握することは、説得力のある判定に繋がる。

・「ファウルだけど、イリーガル?」「押しているのでは?」など、なぜPOCに違和感を感じるのか? またチームからのそのように問いかける反応があるのはどうしてか?

→ 外的な視点で振り返る。(客観的な意見。映像を用いる。等)

・判定の根拠は何か?

・自身のポジション、アングルはどうだったか?

・誰のプライマリー「エリア」か?

・レフリーディフェンスの大切さ。

③自分自身の強みや課題を明確にするため

「課題の明確化」

・現状の把握 → 正しいメカニクス・自身の目標やイメージとのギャップ「課題」 → 要因「解決」 → 修正実践 → 確認

「自分の強みを見つける」

・課題だけではなく、クレーワークの良い点やGoodポイントを貯めていく。他者から「良い」と言われたものや自分の「こだわり」を大切にしていくこと。時に、自分の考え方や実践に対する周りや仲間の言葉を大切にしていくこと。

◆渡邊 諭氏

①1ゲームを通してのメンタルの保ち方、信頼されるための審判とは?

・信頼される審判とは? → 「正しい判定」と「姿勢」

・審判は正しい判定をする力「判定力」を高めなければ(つけなければ)ならない。グレーな部分をなくす(少なくする)ために、一つ一つのプレーに対してしっかりと足を運び、自分の目で確かめる。→ 判定の根拠となり、裏付けとなる。プレーを見るための努力を粘り強く続ける。

→ 1試合(40分間) → プレない判定 → メンタルが保たれる。

②ヘルプディフェンダーについて (ヘルプディフェンスを気にすると、ローテーションのタイミングがあやふやになる)

・最近の審判を見ていると、ヘルプディフェンスを気にしすぎて広がりすぎている様に感じるが多い。大切なことは、今見るべきものは何なのかの優先順位をしっかりと把握することである。何のためのボールサイド・ツーなのかを改めて考える。

3. 審判割当確認

4. 代表者会議伝達事項、TO・MCについて 千葉県U15審判委員長 伊東 洋揮 氏

5. 連絡事項

担当ゲーム (ゲーム後のコメント)

2024年8月7日 (水)

女子1回戦 志茂田 (東京) vs 市川六 (千葉)

CC: 雨宮 恵 氏 (山梨) U1: 南出 大輔 U2: 倉持 雄一 氏 (栃木)

ミーティング担当: 岸 由貴 氏 (指名)

【ミーティング内容】

・プライマリーを理解し、クレーで協力してゲーム運営ができた。メカニクスに関しても、特に問題なくできていた。

・バイオレーション (トラベリング・ダブルドリブル) についてコールしてもよいケースがあった。

・タイムマネジメント (ショットクロック) については小数点のところまで意識できるととても良かった。

2024年8月8日（木）

女子2回戦 豊野（埼玉）vs 七林（千葉）

CC：平山 智章 氏（栃木） U1：高橋 克典 氏（千葉） U2：南出 大輔

ミーティング担当：星河 聖 氏（群馬）

【ミーティング内容】

- ・クルーで協力してゲーム運営ができ、プライマリーでのシングルコールが多かった。メカニクスに関しても、特に問題なくできていた。
- ・選手、コーチへのコミュニケーションをとっていたことは良かった。
- ・2Qにメンバーが変わった際に再度テンポセッティングをしても良かった。
- ・タイムマネジメントについて、訂正したことはとても良かった。

大会を通しての感想

この度は、関東中学校バスケットボール大会に派遣頂き、ありがとうございました。

初めての県外派遣であり関東中学校バスケットボール大会の舞台に立つことができたことは大変うれしく思います。貴重な経験をするともに多くのことを学ぶことができました。

レクチャーでもあった、メカニクスの理解・タイムマネジメント・コミュニケーション・正確なPOC＝判定力の向上という点において、意識を持ちながら取り組みました。そうすることで、今までよりも判定の根拠・クルーでの共有・コミュニケーションの取り方や気遣いなどの重要性を再度確認すると共に自分自身が今後、身につけなければならないことであると理解できました。

また、自分自身の判定力を高めていくために、見えたプレーを単に判定するだけでなく、判定するためのプレーの予測やポジションアジャストの徹底、一つ一つのプレーに対してしっかりと足を運ぶこと、プレーを長く捉えること意識して、実践していかなければならないと感じました。今大会で得た経験を県内で還元していき、自分自身もオンザコート・オフザコートともにレベルアップしていければと思います。

最後になりますが、大会期間中、お世話になりました千葉県バスケットボール協会の役員及び審判員の皆様、指名審判員・派遣審判員の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。